

発行日
平成21年8月1日

発行

足立信也事務所
広報委員会〒879-7761
大分市中戸次6126-1
TEL (097) 548-8484
FAX (097) 548-8400

CONTENTS

- ご挨拶…………… 1~2
- 活動報告…………… 3
- 国会報告・委員会報告…………… 4~5
- 支援者の声…………… 6
- ドクター足立のワンポイント医学…………… 6
- お知らせ…………… 6
- 編集後記…………… 6

『足立信也と安心な日本を創る会』 <http://www.adachishinya.com> E-mail: info@adachishinya.com

ご挨拶

解散・総選挙の意味

— 民主党政権で何が変わるのか —

暑い日が続きますがいかがお過ごしでしょうか。皆様の日頃のご支援に感謝しております。Shin-ya新聞も今回で第13号となり、また、新聞発行の間を埋めるShin-ya新聞「サプリー」は既に9号を数えました。1号当たり諸経費が約70万円かかることを考えれば、これもまた皆様方のご支援の賜物と感謝しております。

『とにかく変えてくれ!』あいつぐ地方自治体首長選挙、そして東京都議会議員選挙での有権者の叫びは何を意味しているのでしょうか。

『景気が悪い』『仕事が無い』『年金が少ない』『教育費が高い』『病院がなくなる』『農林水産業はやっていけない』『北朝鮮の暴走は止められないのか』、・・・そして『日本は大丈夫か』。

半年以上続いた今年の通常国会が7月21日閉会し、8月30日衆議院総選挙が決まり



ました。これほど大きな意味を持ち、国民一人ひとりに自覚と責任が求められる総選挙は過去にはありません。

◆政権交代可能な仕組みが動き出すのか

『権腐10年』という言葉があります。権力の座に10年いるとその政権は腐敗すると言う意味です。1955年、いわゆる55年体制の成立から、細川、羽田内閣の1年を除いて53年間自民党1党が政権の座にいます。政権与党の交代が無い民主主義国家は日本だけです。わが国の、国民の代議員である議員を選出し、多数政党が内閣を形成する議院内閣制においては、政権政党の交代が無いことは民主主義社会にあるまじきことなのです。政権交代可能な制度が政治を浄化する、新しい制度構築を促進する、という必要性から1996年以降小選挙区制が導入されました。

◆前回2005年の総選挙は

小泉政権による疑似政権交代劇

『郵政を民営化すれば全てがうまくいく』、この選挙は新しい制度を導入するという点からは多くの国民の期待を得ました。しかし、郵政民営化は「構造改革」という路線の最終章に過ぎなかったのです。新たな社会保障の制度設計を伴わない「構造改革」が社会のあらゆる格差を拡大し、多くの国民が疑問を抱きつつあったときに『郵政民営化』を流行語にして構造改革を美化したのです。しかしその後、郵政民営化反対議員も自民党に復党し、自民党は党

是である憲法改正、教育基本法改正に数の力で走りました。「構造改革」には不可欠であるはずのセーフティネットの再構築（年金・医療・介護・雇用の見直し）は置き去りにされ、2005年の選挙がただ自民党の議席を増やすことだけに利用された事を国民は理解したのです。

◆戦後政治の総決算

戦後の経済成長期に有効に機能した諸制度は中小企業のものづくり力に裏打ちされた大企業の輸出戦略の賜物です。しかし、グローバル化の中で輸出依存度の高い国ほど経済危機の影響を大きく受ける事が昨年来証明され、そこに立脚した諸制度もまた脆弱なものであった事が顕著になりました。政治は過去の政策の繰り返しではなく、将来に対する新たな構想を示さなければならぬのです。私は戦後の政治は経済成長にあぐらをかいた依存と妥協だったと思います。これからは国民各層に情報が共有され、熟議を尽くす、結論に対しては国民一人ひとりが責任を負う。そのような成熟社会になるのだと思います。

◆民主党政権になると何が変わるのか

明治維新以降、列強に追いつけ追い越せを合い言葉に政府主導の中央集権国家（第1の道）を築き上げ、戦後は中央集権の形を温存しつつ市場主義を導入し（第2の道）、それが腐敗、無駄使いの構造を生み出しました。我々は市民による熟議の民主主義を目指し

ます。それは政権交代によって制度がころころと変更されることを意味するものではありません。

例えば、いわゆる「スウェーデン方式」で有名なスウェーデンの年金制度改革は、総選挙による政権交代の後、現行の年金制度は維持継続できないということ为前提として、新しい年金制度を構築するための超党派の会議体を作り10年を費やして新制度を発足させたのです。しかも不断の見直しが続いています。今、世界の年金制度改革への三原則は以下の通りです。

- 若者も無理なく支払える制度
- 転職によっても変わらない制度
- 最低保障機能がある制度

現行の国民年金、厚生年金、共済年金が分立している制度ではどれも満たせません。われわれ民主党は、国民総意のもとに年金制度を作り直そうと提唱しているのです。2004年私が初当選した後、年金制度の超党派会議が、昨年には社会保障国民会議が政府・与党のもとに開かれましたが、我々は参加しませんでした。それは現行制度にとられない、という前提が得られなかったからです。現行制度に小手先の微修正を加える、または制度の欠点や失敗を取り繕い、一時しのぎをすること（弥縫策）はもう止めようという我々の呼びかけに対し、残念ながら応じてもらえなかったからです。

医療制度も介護制度も既に崖っぷちに立っています。医療は提供する側と受ける側の協働作業です。各界・各層の代表の意見を幅広く聴取し、医療の抜本改革に関する目標と工程を定めた基本方針を策定、建議する会議体の枠組みと、民主党政権が責任を持ってその実現を図る体制を確立します。介護も教育も基本的には同じ考え方に立つべ

きだと思いません。我々の手で新しい制度を構築しようではありませんか。

◆選挙の争点

政府・与党からどのような争点設定がなされるか分かりませんが、最大の争点は冒頭に書きましたように政権交代可能な仕組みがこの国で始まるかどうかです。具体的に簡単な言葉で違いを表しますと、

- ① 自民党による業界を通じた間接支援か（無駄使用の温床）、国民を直接支援（子ども手当、農業戸別補償、高速道路無料化、高校無償化）する民主党か
- ② 「過去は間違っていました、これからはしっかりやります」と言う自民党に対する包括委任か、「4年間は消費税を上げないで無駄を排除する」と言う民主党に対する限定委任か
- ③ 行政のみならず、立法作業も官僚に丸投げする自民党か、行政と立法の区別を守り、官僚を指導する民主党か
- ④ 硬直したしがらみ構造の中で正義を追求できない自民党か、あるべき姿を合議によって各界、各層が追及する民主党か
- ⑤ 地方分権であくまでも中央の支配を残す自民党か、地域主権で市民が主役の民主党か

最後に、世界各地で民族紛争と称する宗教紛争が頻発しています。われわれ東アジアは『泥の文明』（松本健一著）という共通する風土の中で、自然を敬い、畏れ、崇拜し、いかに生きるべきかを追及する歴史を共に刻みました。この地域に宗教戦争は起きず、世界の半分近い人々が暮らしています。単純な国家主義（ナショナリズム）に走

らず、日本的な、そして本来、東アジア的な考え方で共同し、世界に発する時代に来ているのではないのでしょうか。21世紀はアジアの世紀といわれています。それは新興国による経済発展のみを指しているのではないと思えます。

勇気を持って時代の扉を一緒に開こうではありませんか。

比例区は民主党、選挙区も民主党候補をどうかよろしくお願い申し上げます（私の選挙は来年です）。

（民主党の政策集、ならびに事業仕分けによる無駄使用の捻出可能性についてはホームページからご覧ください）

参議院議員
医学博士

足 立 信 也

活 動 報 告



1月30日 大分県労働者福祉協議会



2月22日 (社)大分県臨床検査技師会



3月28日 民主党大分県連10周年記念
第13回定期大会



4月13日 上戸次小入学式



5月23日 大分県教組直入支部定期大会



5月24日 日本ALS協会大分支部総会



5月30日 湯布院厚生年金病院

民主党は全国の社会保険病院と厚生年金病院を原則存続させる方針を固め、政権公約に盛り込みます。

県内対象は、南海病院(佐伯市)と湯布院厚生年金病院(由布市)の2ヶ所



5月31日 戸次地区ソフトボール大会



6月13日 太平洋セメント労働組合



6月20日 みんろうきょう「政策研修会」



5月30日 別府市



6月6日 滝尾(大分市)



6月27日 富士見(大分市)



7月11日 佐伯地区後援会幹事会

国会報告

委員会報告

① 行政監視委員会視察 (2月25日)

科学警察研究所で鑑定技術の向上のための教育が行われている部署を視察したが、現状では肝心の解剖を行う法医・病理医が不足している。民主党はこれらの養成を進める「法医科学研究所設置法案」を提出しており、この視察でその必要性をさらに強く感じた。

② 厚生労働委員会

■ 大臣所信への質疑 (3月17日)

雇用保険の対象者を定める基準が局長通知に記されている点を指摘し、きちんと法令で定めるべきと訴えた。また、出産後に就業を継続できるような施策を充実すべきと提言した。高齢・障害者雇用支援機構の委託を受けた雇用開発協会等の不正を指摘し、その説明を求めた。



■ 視察 (4月7日)

渋谷区の公共職業安定所（ハローワーク渋谷）と日本赤十字社医療センターを視察した。

■ 一般質疑 (4月21日)

高齢・障害者雇用支援機構の委託を受けた雇用

開発協会等の不正に関し、委託の再検討と不正行為である「預け」の禁止を大臣に約束させた。臓器移植に関しては小児の脳死判定に関する検討を政府に要請し、骨髄フィロタールの供給停止事件に関して、今後の危機管理のためにも法改正を含め体制整備を進めるべきと主張した。医師の宿直直許可問題に関して、背景には医師不足と過度な医療費抑制があることを指摘し、解決のためには現状分析と計画立案が必要であると訴え、大臣もそれを約束した。

■ 一般質疑「新型インフルエンザ対策」 (5月8日)

対策の重点が水際対策に偏りすぎており、肝心の国内対策がおろそかになっている点を具体例を挙げて指摘した。特に、来診前の電話連絡の徹底を周知し、発熱外来のための隔離室や陰圧室の整備を早急に進める必要性を訴えた。

■ 「国民年金法改正案」 (6月9日)

足立自身に送られてきたねんきん定期便を例にとり、すべての人に受け取り予測額を示すべきであると指摘した。また、年金記録の遡求訂正問題については、その全容の解明を訴え、年金財政計算については、モデル世帯の想定や労働力率の予測、所得代替率の計算方法などの問題点を指摘した。

■ 「臓器移植法改正案」 (7月9日)

様々な立場を代表する多くの方達を参考人として招き、数日間集中して参考人質疑が行われた後、この日は各法案提出者への質疑が行われた。足立は法的・医学的観点から論点を質した。

講演等

民主党の医療政策への関心が高まると高まる中、多くの要請に応え精力的にこなした。

① 筑波大学医学セミナー (1月14日/つくば)

現在も非常勤講師を務める筑波大学の医学セミナーにて、現場の医師にとって特に関心が集まる医師不足対策や医療事故調査制度に関して講義を行った。

② 国際パーソナルヘルスシンポジウム (2月4日/東京)

コンティニュー・ヘルス・アライアンス、筑波大学、日本医療政策機構が合同で開催したシンポジウムに登壇し、医療制度改革には、医療を与える側と受ける側が情報を共有し、リテラシーを高め、協働作業を行っていくことが必要であると述べた。



③ 日本医療法人協会 (2月5日/東京)

同協会が設置した「死因究明制度等検討委員会」に招かれ、民主党での死因究明に関する検討の経緯を説明し、「死因究明法案」、「法医科学研究所設置法案」、「患者支援法案」の詳細を説明し、議論を行った。

④日本移植学会 市民公開講座 (4月5日/東京)

臓器移植法改正案に関しては、「様々な立場の人の意見を聞き、情報を共有し、議員一人一人が正しい理解を深め、決断していくための勉強会を行っていい。現在衆議院に提出されている3案ともに問題点があり、修正の余地がある。」と述べた。



⑤(NPO法人) 医療制度研究会 講演会 (5月9日/東京)

「医療事故調査制度4つの視点から民主党案を検証する」と題した講演会で、井上清成弁護士から当事者の意思を尊重する民主党案の方が良いとの趣旨の基調講演が行われ、足立は報告及び井上氏との質疑応答などを行った。

⑥医療版事故調

〜国会での十分な審議と早期設立を求めて〜

(5月12日/東京)

患者団体が主催するシンポジウムで民主党を代表して説明した。党として基本的理念を持ち、詳細な制度設計を行っているのは民主党だけなので説得力があり、会場の方達からの意見も民主案に通ずる内容が多かった。

⑦大田区蒲田医師会 (5月21日/東京)

東京都第4区候補の藤田のりひこ氏からの依頼を受け、大田区蒲田医師会にて講演を行った。党の医療政策について具体的に説明し、現役医師の方々との有意義な意見交換を行った。

方々との有意義な意見交換を行った。

⑧「医療と法律研究協会」シンポジウム (7月4日/東京)

「医療への信頼確保と医療安全―事故調スキームを検証する」と題されたシンポジウムに招かれ、「大綱案(政府案)への対案ではなく、純粹に医療への納得・安全を求めるためのスキームをつくる必要がある」と述べた。



その他

①m3.com『医療維新』の記事 (2008年12月26日掲載)

医療従事者を対象としたインターネットサイトで行われた「2008年の医療界のキーパーソンは誰?」という医師を対象としたアンケート調査で、足立は勤務医からの回答で12位、開業医からの回答でも12位にランクインし、舛添厚生大臣のぞいて20位圏内にランクインした唯一の国会議員となった。

②厚生年金病院の公的病院としての存続を求める

地元自治体・住民代表からの要望

■2月19日

住民代表の方々が、民主党厚生労働部会及び「医療現場の危機打開と再建をめざす国会議員連盟」の会合にて要望を行い、関係議員達は、厚生年金病院を公的病院として存続させるための具体的な方策について、党内での検討状況について述べた。

■7月13日

民主党厚生労働委員会の役員に対し要望があり、足立を中心に、党内で決定した厚生年金病院を公的病院として存続させる政策について説明した。

③大分県電力総連国会見学 (3月10日)

大分県電力総連の皆さんが国会見学に来られ、予算委員会の傍聴、国会議事堂内見学の後、懇談を行い、政局、エネルギー、環境、社会保障政策の話などを熱心に聞いておられました。



④医療再建議連と四病院団体協議会(四病協)との意見交換会 (4月10日)

医療現場の諸問題のうち、とりわけ医師不足問題等に関して「メデイカスクール構想」をテーマに意見交換を行った。

⑤「Medical Tribune」アンケート (5月1日)

足立が提供した「民主党の医療政策」を掲載し、各政党が掲げる医療政策比較を行った『Medical Tribune』(主に医療機関に配布されている週刊医学新聞)のアンケート調査によると、支持する医療政策と次期衆院選での投票政党ともに民主党が1位であった。

支援者の声

足立信也議員におもむくこと

衆議院の解散が決まりました。総選挙の日程が決定され、議員が国政そっちのけで走り回る四十日間がスタートしたようです。政権交代・官僚政治の撤廃・献金問題、こんな言葉が演説の大半を占めるんでしょうね。今回の選挙は。

私は、五十三歳の自営業です。住まいは大分市のはずれに位置し、山間に点在する自然美あふれた集落です。私と信也さんの出会いは衝撃的でした。なんと小学校時代の担任の息子さんでした。私にとって「人の心の痛み、人を傷つける事の罪の深さ」を、身体で教えて下さった先生でした。そんな先生のお子さんが笑顔で挨拶をしてくれました。この人に嘘はないな。それが私の、第一印象です。来年には選挙を控えています。いかに追い風が吹いているとはいえ、おごらず、信念を貫いていただきたいと思えます。

私の集落でも高齢者が多く、農業に携わる姿が寂しく感じる事もたびたびです。この集落でも、集落営農組織を立ち上げ、先輩の知恵を頂きながら土地を守っていききたいと思えます。信也さんには、地域医療・少子化対策・食料自給率の問題に引き続き取り組んでいただきたいと思えます。もちろん、中央政界でも益々のご活躍をご祈念申し上げます。

大分市 K・S

政治に望むこと

就職して、早くも二十二年が経とうとしている。その間結婚し二人の子どもを産み、現在子育て真っ最中である。上の娘はさほど大きな病気もせずに育ってきたが、下の息子は何度か入院生活を経験している。「入院」などという特別な事態が生じると、家庭内の日常生活のリズムが壊れることは免れない。核家族であるゆえに、私が病院で寝泊まりし、つれあいは家庭で保育園に通う娘と二人の生活ということが続いた。その間「介護休暇」という制度を取得する勇氣は私には無かった。もちろん夜間は私が病院へ泊まり、朝になると祖母が交替してくれるということが可能だったからではあるが、とにかく私の頭の中は「職場には迷惑がかけられない。仕事は休めない。」という思いが占めていたからだ。

近年、政府が数年前からよく使う「ワーク・ライフ・バランス」というフレーズを耳にする度に、当時のことを思い出す。祖母の背中に背負われて、仕事へ行く私を淋しそうな目で見ていた息子を・・・。仕事と私生活を上手に共存させながら、持っている能力を最大限に発揮できる環境づくりを推進してもらえたらと願う。これから働き続ける若き皆さんママさん達のために・・・。

豊後大野市 C・G

ドクター足立のワンポイント医学



新型インフルエンザ

5月8日厚生労働委員会の新型インフルエンザ（新型フル）に関する集中審議で、新型フル対策が水際対策（検査）に偏重している、既に国内には感染者がいるはずなのに医療体制の整備が未熟だと指摘しました。今年のインフルエンザシーズンの終盤はほとんどB型でしたが4月以降、米国でも日本でもA型が急激に増加し、休校措置をとる学校も増加していました。これらのA型は新型フルであった可能性が高いと思われています。事実、検査で最初に発見された新型フル患者は5月9日でしたが、神戸市内で国内発生した最初の患者の発症は5月6日でした。今回の対策の問題点は、世界保健機関（WHO）も推奨していない検査に偏重したこと、そのため、ただでさえ脆弱な医療体制を疲弊させたこと、感染者や関係者をまるで罪人のように報道させてしまったこと、等です。

新型フルの症状は発熱、咳、頭痛、吐き気など他の多くの病気と共通しますし、PCR検査をしない限り、季節性インフルエンザと区別できません。最大の対策は手洗いやうがい、十分な睡眠、バランスのとれた食生活といった日常の予防です。

（民主党の新型インフルエンザ対策は政策集をご覧ください）

お知らせ

個人会員募集と更新のお願い

個人会員を募集しています。（年会費 ¥5,000）

事務所の運営費・Shin-ya新聞の発行費・集会費等に充てます。皆様の入会をお待ちしています。また更新時期をむかえられた方には手続きをお願いしておりますので更新をよろしくお願い致します。

ミニ集会(見て聞いて知っちゃくれ)開催のお願い

足立信也を知っていただくためのミニ集会を計画しています。少人数でもかまいません、ご協力いただける方は、大分事務所までご連絡ください。

編集後記

遅すぎた衆議院解散の決断。東京都議選での自民党大敗、民主党大躍進の結果を見ての判断では、すでに地に落ちた政権与党としが云いようがない。今こそ、状況判断も決断も出来ない与党自民党に、国民の怒りの鉄槌を食らわせなければならぬと意を強くした。

私たちの手で、私たちの日本の政治を変えましょう！

Shin-ya新聞編集委員も、公認、推薦議員全員の当選に向けて、全力で頑張ります。皆さんのご支援をよろしくお願い致します。

YES We Can!!

編集長 T・F

● 本紙は、再生紙を使用しています。